

令和5年香美市議会定例会9月定例会議 市長提案説明

本日、議員の皆さまのご出席をいただき、令和5年香美市議会定例会9月定例会議が開かれますことに、厚く御礼申し上げます。

議案の説明に先立ち、最近の香美市の取り組みを例に挙げながら、私の政治姿勢や市政運営についての考え方をご説明させていただきます。

まず、副市長についてであります。

先の7月臨時会議におきまして、議会の皆様のご理解を賜り、8月1日より副市長として、村上真祥（むらかみ なおよし）氏が着任いたしました。

村上さんを、選ばせて頂いた理由は、経験豊富なご経歴はもちろんのこと、そのお人柄にほれ込んだのであります。

ご自身のことは、多くを語らない方ですので、私からご経歴をご紹介します。

村上さんは、私が高知県議会議員として、初めて県庁の皆様とお仕事をさせて頂くことになった時に、国土交通省住宅局から、住宅課長として出向されておりました。

当時は、東日本大震災の直後でありまして、村上さんは住宅課長として、住宅の耐震化や地震対策、そして空き家を活用した中山間地域の活性化に取り組んでおられました。

印象深い実績は、今年度、香美市においてスタートする、行政が個人の住宅を借り上げ、改修して、移住者などに貸し出すという「中間管理住宅」空き家活用促進事業を立ち上げたことです。

行政補助100%で、空き家を改修するという思い切った事業において、国が半額補助をするという仕組みは、国から出向された村上さんだったからこそ実現できたのだと、私は思っております。

また、高知県庁勤務の前には、宝塚市で都市創造部長としてお仕事をされており、そこでは関西学院大学と宝塚市の連携協定を実現させ、大学生が町の活性化に協力するという事業を推進されました。

大学が立地する宝塚市で幹部をお務めになられたご経験は、香美市にとっても大変ありがたいと思っております。

香美市に来られる前は、内閣府で地方創生推進事務局のお仕事をされ、その前は長崎県庁でお仕事をされていました。

私から村上さんをお願いしたことが2つあります。1つは、香美市役所の業務において、これまでのご経験を活かせる得意分野を、力強く引っ張って行って頂きたいということ。そしてもう1つは、若手職員の教育と職員のレベルアップについて、将来の人材育成を念頭に担って頂きたいということです。

副市長就任後、まだ1か月ですが、国家公務員としての実務経験と、多くの県や市でご活躍されたご経歴を基に、良きアドバイザー、お手本として、早速、力を発揮して頂いております。

私同様、村上副市長にも、議会の皆様方からのご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

次に、「5つの基本政策と4つの横断的な政策に基づく香美市づくり」についてです。

最初に、基本政策の1つ目、経済の活性化についてであります。

香美市政において、雇用の場を作り出すことは最も重要な政策の一つであり、今議会では、新たな工業団地造成を加速化すべく、条件調査業務を追加する予算を計上させて頂いております。

昨年度は、高知工科大学に隣接する高知テクノパークにおいて2区画が分譲され、残りが1区画となりました。

南海トラフ地震の危険度が高まっていく中、高台にあり、交通の便が良い香美市において、新たな工業団地を提供することは、県内企業の事業継続計画の選択肢を増やすことにもつながります。

工業団地をスピーディーに造成すべく、高知県とも連携して取り組んでまいります。

次に、べふ峡温泉についてです。

7月31日に、産業建設常任委員会より提言書を頂きました。内容は、「べふ峡温泉について、抜本的な改善を行うように」というものであり、提言を受けた香美市として、新たな運営体制を検討すべく、べふ峡温泉の財務・会計及び優位性についての調査分析委託料を計上させて頂きました。

私としましては、べふ峡温泉の設置条例である「香美市別府森林総合利用施設の設置及び管理に関する条例」第2条にある「別府地域の優れた自然環境にある森林を活用し、林産物の生産、保健休養機能等の総合的な利用を図り、林業者の就労機会及び所得の向上と地域住民の福祉増進を図るため」という当初の目的にかえて、新たな運営体制を模索してまいります。

具体的には、新たな事業主体については、プロポーザルにて公募したいと考えております。

例えばアウトドア関連企業などが、企業のブランド力を生かした集客や、従業員確保策を示し、山岳観光をメインコンセプトにした提案で、応募頂くことなどを期待しており、応募内容には、指定管理料の額や香美市が行うべき設備投資についても提案頂きます。

とは言っても、運営を担うべく応募してくれる企業を呼び込むためには、地域が持つ魅力を示し、合わせて現状の施設状況を明らかにする基礎資料が必要です。

そのために施設の棚卸調査ということで、今回の調査分析委託料を計上させて頂いたという経緯です。今後の公募の時期は未定です。

山岳観光、星空観察、植物観察など自然体験や交流、ワーケーションなど、香美市の魅力を最大限引き出せる企業に応募頂けるよう、企業の参入意欲を呼び起こすような募集要項となるように、しっかりと準備してまいります。

次に、農業者への支援です。

昨年も同様の予算を計上させて頂きましたが、「収入保険制度支援対策事業」、「施設園芸燃油高騰緊急対策事業費補助金」、及び「肥料高騰緊急対策事業費補助金」を計上させて頂いております。

また今議会で新たに、「土地改良施設電気料高騰対策緊急支援補助金」を計上させて頂きました。農業者が減っていく中で、土地改良区の経営が厳しいことをお聞きしており、ポンプ等の農業用水利施設に要する電気代の高騰分に対し支援させていただくものです。

今後も、農業者のお声をお聞きしながら、香美市の農業を守るために、取り組んでまいります。

次に、林業事業体への支援です。

香美森林組合によるハーベスタ 1 台の購入を、南国市、香南市と共に支援するため「高性能林業機械等緊急整備事業費補助金」として、補正予算を計上させて頂いております。

この機械は作業効率を向上させることに加え、高い省エネ性能により、燃料費のコストを下げ、事業体の経営を向上させることが見込まれます。

物部川流域の環境保全のためにも流域 2 市とも連携して、香美市の林業を支えてまいります。

次に基本政策 2 つ目の健康長寿の香美市づくりです。

9 月になり、ようやく暑さも和らいできておりますが、今年の夏は非常に暑く、香美市としても市民の健康を守るべく、熱中症対策に取り組んでおります。

具体的には、今年度より、熱中症警戒アラートが発令されたときには、防災行政無線で住民の方にお知らせするとともに、クーリングシェルターと呼ばれる熱中症予防休憩所として、香美市役所本庁、中央公民館、プラザ八王子、香美市立図書館かみーる、香北支所、保健福祉センター香北、図書館香北分室、物部支所、奥物部ふれあいプラザ、図書館物部分室の 10 か所を指定し、9 月 30 日まで開設しております。

今後とも熱中症警戒アラートが出た際には、こういった施設が利用できることを、市民に伝え、体調を崩さずに過ごして頂けるよう、取り組んでまいります。

また、このクーリングシェルターの取り組みとも相まって、かみーるへの来館者が増えており、駐車場の不足が顕著となっております。そこで、図書館東側敷地を購入すべく、用地購入費、用地測量費及び補償調査委託費の予算を計上させて頂きました。

かみーるへの来館者数は、今後も継続するものと考えており、駐車場整備に早急に取り組みたいと考えております。議会の皆様のご理解を頂ければと思っております。

次に基本政策3つ目の教育の充実です。

来年度からスタートする大柝中学校の山村留学制度については、HP やパンフレットが完成し、4月から中学生を呼び込むべくPR が本格的にスタートしたところです。11月5日には、オープンスクールを開催いたします。

大柝地域において、山村留学制度を成功させ、子供たちの学ぶ場所を残すべく、しっかり取り組んでまいります。

さてこの機会に、未来の香美市に学校を残すためには、今から取り組まなければ間に合わないという、私の問題意識をお話しさせていただきます。

香美市で昨年生まれた子供の数は119人です。少子化の傾向はこれからも続くことが予想されており、大柝小・中学校などの存続だけでなく、山田高校の存続も厳しくなってくると思っております。

今年の山田高校は、全校生徒305人であり、かなり小さな高校となっております。

その中で香美市3中学校から進学した生徒は128人。割合は42%です。ちなみに今年の香美市内3中学校から山田高校への進学率は26.5%です。

私は、香美市において、山田高校の生徒数は、香美市のまちづくりを考える上で重要で、今から山田高校魅力化への支援を行わなければ、更なる生徒減により、教員数の減。そして最終的には、他校との統合となるのではと危機感をもっております。

近年の山田高校は、生徒の希望の進路を実現し、進学実績も非常に良い結果を出しています。また探究を中心に据えた教育により、文部科学省の広報で紹介されるなど、全国的にも注目されています。この山田高校を、香美市として守り、発展させていかなければなりません。

そこで、これまで香美市には、市長部局が作る教育大綱が制定されていませんでしたが、小中高大の連続した学びを実現すべく、今年度中に作成したいと考えております。

大綱により、市長部局と教育委員会のベクトルをより一層合わせ、まちづくりも念頭に置いた人材育成に取り組んでまいります。

さて来年 2 月には山田高校をメイン会場にした「よってたかって生涯学習フォーラム」が開催予定です。まずはこのイベントで、香美市における連続した探究教育をPRしていきます。

具体的には、(仮称)「探究発表コンクール」と題し、香美市で学ぶ児童生徒に加え、大人にも発表して頂く機会を設け、市として表彰したいと思っております。そしてフォーラム時には、受賞者プレゼン、ポスターセッションを行います。

世代を超えて探究学習を行う町として、そして「探究といえば香美市」というまちづくりについて、力強く取り組んでまいります。

次に、香美市奨学金返還支援補助金についてです。

この補助金は、奨学金を返済している若者が、香美市に定住している場合に、年間 12 万円を支援するもので、香美市の生産年齢人口の定着を支える補助金と位置付けております。

また、コロナ禍もあり、家計が苦しく、奨学金を借りることに躊躇している若者を支援することで、学びたい若者を応援できるものと考えております。

そこで今回 20 名分の追加予算を計上させて頂きました。

今後とも、香美市を支える若い人材を、県外から呼び戻したり、新たな移住者として呼び込むことを通じて、香美市を担う人材確保に、継続して取り組んでまいります。

次に、基本政策 4 つ目の市民を守る災害対策についてです。

当初予算で年間 20 件の見込みで募集していた「老朽住宅除却事業費補助金」への申請が、6 月中にいっぱいとなり、新たに 5 件追加するための予算を計上させて頂きました。

南海トラフ地震により、倒壊した家屋等が道路を塞ぎ、緊急車両などの通行を妨げ、負傷者の救急搬送や物資の輸送などに支障をきたさないよう、住宅耐震化やブロック塀等の除去等をはじめとする事前防災にもしっかりと取り組んでまいります。

最後に基本政策5つ目のインフラの充実と有効活用です。

7月18日19日に物部川改修の要望を、8月2日3日に香美市道の予算確保をと、国土交通省、財務省、国会議員への要望活動を行いました。

物部川改修では、近年の頻発する豪雨についてご説明し、事前に河川整備を行っておかなければ、香美市のみならず南国市までも甚大な被害が出ることを、また市道改修では、住民にとって非常に重要な道であり、特に通学路の安全確保について早急に道路改良が必要なことをご説明いたしました。

今後とも、的確な要望につとめ、香美市民の安心安全と利便性向上を目指して取り組んでまいります。

次に都市計画についてです。先月29日に高知広域都市計画協議会が開催されました。5月に行われた会議を踏まえ、香美市からは、地区計画の緩和案として、「事業系・住居系の地区計画における接道幅員の緩和」「旧村役場が存在した集落を大規模指定集落に準ずる区域として追加すること」「鉄道駅周辺を地区計画可能とすること」の3点を提案し、県からは、概ね香美市の提案に沿った改定原案が示されました。今後パブリックコメントを経て、決定となります。

私としましては、この緩和により、片地、香長、舟入の各小学校区において、新たな住宅開発による児童数の増加や、企業による新たな投資も呼び込めるのではと期待しているところです。

最終的な決定は10月ですが、この緩和を生かして、若者世代が香美市に定住できるよう、積極的に取り組んでまいります。

続いて、4つの横断的な政策についてです。

1つ目は、親しまれ信頼される行政窓口への継続的な改善です。

先日、香美市役所の、おくやみ手続きにおける窓口対応について、お褒めの言葉を頂きました。手前みそな事例紹介ではありますが、議員の皆様にも、他の市役所職員にも知ってもらいたいということで、あえてお話させていただきます。

お褒め頂いた方のご家族が亡くなられ、市役所での手続きを行うにあたり、お知り合いに相談したところ、手続きのためには色々な課を回る必要があり、半日以上かかると、教えて頂いたのだそうです。しかし実際は、担当職員が交代で、その方の所に出向く形を取り、色々な課を回らなくてよかったこと。そして結果的には想像以上に早く終わったとのことでした。

私は、市の職員が、自発的に考えて、改善してくれたことを本当に嬉しく思っておりますし、こういった改善を、色々な業務の中で、他の職員にも考えてもらえればと思っているところです。

今後とも、市役所職員の改善案をしっかりと応援してまいります。

2つ目は、中山間対策の充実・強化です。

7月末に報道がありましたように、J A高知県は、令和5年度末にJ A物部支所を廃止することを決めました。

このことによりまして、J A物部支所が担っていた金融店舗機能が失われ、物部地域の住民には大きな痛手となることが予想されます。

市としましては、まずは住民の方にどのような影響があるのか、聞き取ってまいります。

次に中山間地域に住む方々の買い物支援策として、「移動スーパー事業支援金」を計上させて頂きました。

地域の人口減少に加え、燃料費の高騰などもあり、事業者にとっては利益が出しにくい経営環境であると認識しております。

引き続き、事業者の皆様との情報交換も密にして、中山間地域の買い物困難地域対策にも取り組んでまいります。

3つ目は、こども施策の充実と女性活躍の場の拡大です。

先月、香美市企業等人権啓発連絡会主催の研修会にて、インターネットと人権というテーマでお話をお聞きしました。

ネットゲームへの依存から、夜中までゲームをすることで、授業中に集中力が続かず、学業不振に陥る子供の事例や、SNSを使った子供同士のコミュニケーションからいじめにつながり、不登校になってしまうなど、事例が紹介されました。

またネットニュースには、レコメンド機能があり、利用者の興味や関心の高いニュースを選んで表示するという仕組みになっており、そのことから、特定の考え方だけを見せられることで、考え方が偏ってくるという弊害についてもお話がありました。

私としましては、食育において、偏った食生活にならないように色々なものを食べるように、情報についても偏った情報だけに触れるのではなく、色々な意見を目にして、自分で情報を判断できる知性を、香美市の子供たちには身につけてもらいたいと思っております。

SNS によるいじめなど人権問題も多様化しております。こういった課題を解決するための土台となる条例として、現在「人権尊重のまちづくり条例」について、市役所内部で検討を進めております。今年度中の制定をめざし、スピード感をもって取り組んでまいります。

最後に4つ目の文化芸術とスポーツの振興です。

先月10日、詩とメルヘン絵本館の25周年式典が開催されました。また次の日に行われました「詩とメルヘンを振り返る」という当時の編集者お2人による対談も聞かせて頂きました。

対談をお聞きして、やなせ先生が「詩とメルヘン」という投稿雑誌を通じて、若い編集者を育て、詩人やイラストレーターを発掘したということが良くわかりました。またこの雑誌の影響力についても、改めて教えて頂きました。

やなせ先生の代表作が、アンパンマンであることは間違いないのですが、やなせ先生が残された、詩やイラスト、キャラクター。そしてやなせ先生自身のお人柄や哲学は、何としても次世代に残さねばと改めて決意したところです。

式典後、やなせスタジオの越尾社長、振興財団の明石理事長に、やなせたかし先生を顕彰する展示館建設について、5年後の開設を目指した私の考え方をお話した所です。

今後、各団体との協議を行い、やなせ先生の没後 10 年を機として、検討をスタートさせたいと考えております。

次に、市主催スポーツイベントについてです。

9 月 17 日に、高知ファイティングドックス最終戦を土佐山田スタジアムにて、香美市の冠試合として開催いたします。

当日は、協賛企業のご協力も得て、無料試合となります。香美市の物産展も同時開催することとなっており、香美市内外からお客さんに来て頂き、市民とともに野球を楽しみたいと思います。

今後も、香美市が所有する施設を有効活用して、市民とスポーツを楽しむ機会をどんどん作っていきたいと思います。

以上、5 つの基本政策と 4 つの横断的な政策についてご説明させて頂きました。